



審判(副)委員長



戦評用紙

| | | | |
|--|-------------|---------------------------|---|
| 種別 | バレーボール (精神) | 会場 | 小浜市民体育館 |
| 平成 30 年 10 月 13 日 | 土 曜日 | 第 1 日目 | |
| 特設 A コート | | 第 1 | 試合 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 1回戦(第1試合) <input type="checkbox"/> 準決勝(第 試合) <input type="checkbox"/> 3位決定戦 <input type="checkbox"/> 決勝戦 <input type="checkbox"/> 交流戦(第 試合) | | | |
| ◎試合結果 (該当する種別にレ印) | | | |
| 勝利チーム 青森県 2 <small>都道府県・指定都市名</small> | | 25 — 14 25 — 19 — — | 0 福井県 <small>都道府県・指定都市名</small> |
| 【審判員】 | | | |
| 主 審： <u>杉下 真文(福井県)</u> | | 副 審： <u>辻 弘文(福井県)</u> | |
| 記録員： <u>内藤 和志(福井県)</u> | | A・S： <u>東山 裕紀(福井県)</u> | |
| 【戦 評】 | | | |
| | | 記載者： <u>東條 悟</u> | |
| <p>第1セット序盤は、青森県11番太田のスパイクが決まり、青森県がリードを奪う展開となった。福井県も粘り強くボールをつなぎ、福井県12番赤松が鋭いスパイクを決めるなど対抗したが、青森県のブロックとレシーブが機能し、福井県の追撃を許さなかった。</p> <p>青森県2番佐藤のフェイントやスパイクをコースに打ち分けて得点を重ね、さらにリードを広げ、そのまま青森県が第1セットを先取した。勢いに乗った青森県は、第2セットも効果的なサーブやコンビ攻撃で4連続得点するなど、試合の主導権を握った。対して福井県もネット際の攻防を制して着実にブレイクを重ね、10対10と追いついた。その後も青森県11番太田がスパイクを決めれば、福井県16番木原も鋭いスパイクを決めるなど一進一退のラリーが続く熱戦となった。しかし、終盤は青森県のベンチワークが冴え、途中交代で入った選手が躍動し、このセットも取り切ってストレートで勝利を取めた。</p> | | | |